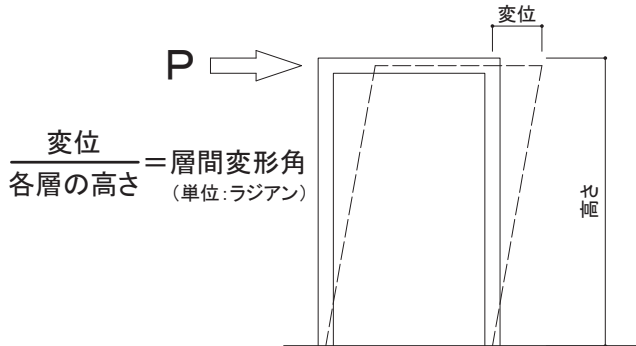


1 センターサイディング標準施工法

1-15 胴縁下地組み(鉄骨下地組み)

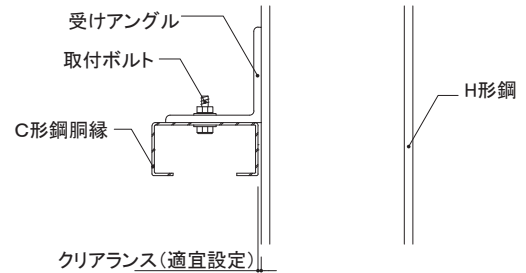
1) 基本事項

- 建物の層間変形角は1/120以下で設計してください。



2) 下地組みの寸法と精度

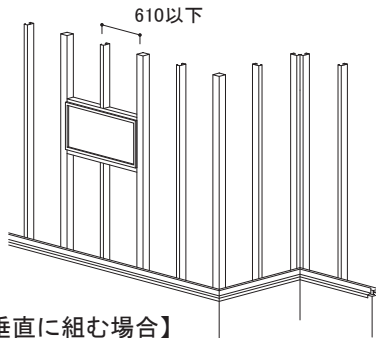
- 下地C形鋼は受けアングル(ねこ)を柱・梁に取り付け、受けアングルにボルト留めします。
(H形鋼などの柱や梁に直接溶接しないでください。)



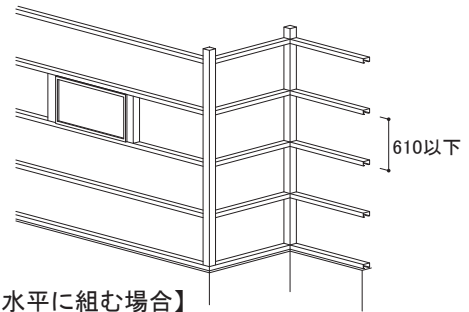
3) 鉄骨下地(C形鋼)の形状、寸法、間隔

- 下地C形鋼の厚みは、1.6～2.3mmのものを使用します。
(3.2mm厚以上になると、ビスの留め付けに手間がかかり、施工精度にも影響します。)
- 断面寸法はC-100×50×20mm以上を使用します。
- 下地C形鋼の間隔は610mm以下で取り付けます。
- 出隅部、入隅部、横張り時の左右接合部、縦張り時の中間水切部は□-100×100×2.3mm以上、またはC-100×50×20×1.6mm以上ダブル組みを使用します。

耐火構造が必要な場合、認定によって構造が鉄骨下地の条件が異なります。認定書の別添でご確認ください。



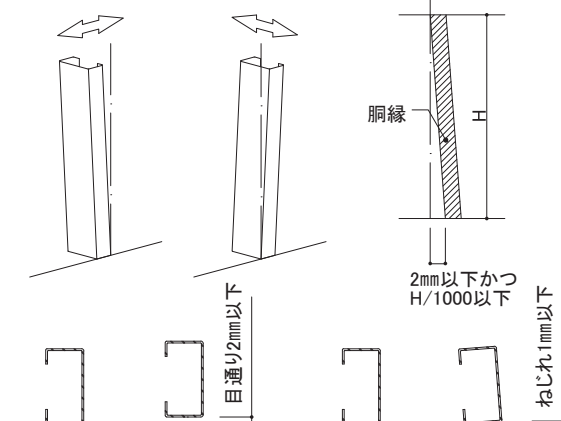
【鉄骨下地を垂直に組む場合】



【鉄骨下地を水平に組む場合】

4) 下地C形鋼の立ち・目通り・ねじれ

- 下地C形鋼の立ちは2mm以下で、なおかつH/1000以下としてください。
- 下地C形鋼の通りのズレは、2mm以下としてください。
- 下地C形鋼のねじれは1mm以下としてください。



5) 不陸限界

- 下地ジョイント部のズレと、溶接部のバリ、ビス頭などによる不陸は下記の寸法範囲としてください。

